

自治区長・役員向け

自治区加入促進 ハンドブック



豊田市区長会
豊田市

はじめに

～加入促進の必要性～

近年、自治区を取り巻く社会環境は、ますます複雑・多様化しており、特に、防災では東日本大震災以降、自助・共助の考え方のもと、これまで以上に自治区の活動の重要性が増しています。

自治区は、防災対策だけでなく、少子高齢化、防犯といった様々な地域課題を踏まえ、住みよいまちづくりを進めていくうえで中心的な役割を担ってきましたが、これらの地域課題を解決し、より安全・安心な地域を実現するには、日頃から隣近所で支え合い、助け合いながら暮らせる地域づくりがますます重要になってきます。

昨今、自治区に加入してくれない、区費を払ってくれない、自治区の活動に参加してくれないといった声がよく聞かれ、全国的にも自治区の活動に対して無関心な人が増加する傾向にあります。その無関心は、自治区の活動が理解されていないことも要因の一つだと言われています。

加入促進活動は、自治区活動の活性化に欠かせません。活動の必要性をしつかり理解していただき、それが加入に結びつけば、自治区活動への参加者を増やすことができるだけでなく、次世代の地域の担い手育成やいざという時の支え合いにもつながります。

本冊子では、各種事例を参考に、自治区への加入を呼びかける場合や活動の活性化のための基本的な考え方や方法をまとめました。ぜひ、活動の参考にしていただき、各自治区のさらなる活性化につながることを願っています。

令和6年3月

豊田市区長会
豊 田 市



4つのステップで、自治区の未来に向けた活動をはじめましょう！

step 1

自治区の必要性を再認識しよう 01

自治区はどんな活動をしているのでしょうか。加入率が下がるとどうなるのでしょうか。改めて自治区役員の皆さんで共有することからはじめてみましょう。自治区を今後も盛り上げていくために何が必要であるかぜひ話し合ってみましょう。



» 自治区活動とは

- 自治区の機能 01
- 自治区加入のメリット 02
- コラム：災害時こそ自治区！ 03
- 加入率低下による影響 03

» 豊田市の現状

- 加入率の推移 04
- 加入率低下の要因 04

step 2

活動を始める前に心がまえをしよう 05

実際に加入促進の活動をはじめる前に、ぜひ気を付けていただきたいポイントがあります。自治区長さんにとっては当たり前のことかもしれませんが、活動に取り組まれるみなさんで、一度共有しておきましょう。



step 3

実際に加入の働きかけをしてみよう 06

加入を促す上で最も大切なことは、自治区の活動を知ってもらうことです。各世帯を「訪問」することは直接それを説明できる良い機会であり、実際に会って話をするすることで加入につながる場合が多いため、一番基本的な取り組みといえます。以下では、訪問するにあたっての一般的な方法をまとめました。



» 訪問編

- ① 訪問前の準備をしっかりと行う 06
- ② 実際に訪問する 08
- ③ 想定される質問を把握する 09
- ④ 未加入の状況に応じて対応する 11

» 個別対応編

- ① アパート・マンション居住者への呼びかけ 12
- ② 学生・短期居住単身者への呼びかけ 13
- ③ 外国人住民への呼びかけ 14
- コラム：空き家情報バンク「地域面談制度」 15

step
4

自治区の活性化を考えよう 16

呼びかけによって、無事加入をしてくださいました。しかしそれで終わるわけではありません。実際の活動に参加してもらい、自治区を盛り上げていく必要があります。そのためには、普段から区民とコミュニケーションを取るなどして、自治区の活動に積極的に参加してくれる担い手を育成していきましょう。



活動には地域性があります。他自治区での活動事例（インタビュー）もあわせて紹介しますので、ぜひご自分の自治区・地域でどのような活動ができるか考えてみましょう。

» 一般例

■①自治区活動の広報	16
■②普段のコミュニケーション	17
■③組織的な活動	18
●コラム：口コミの力	18

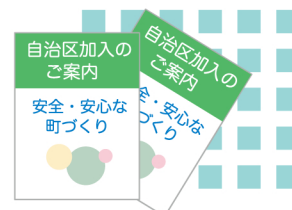
» 活動事例

■デジタルツールの導入で開かれた自治区活動	19
■柔軟な話し合いの場、活動の場をつくる	21

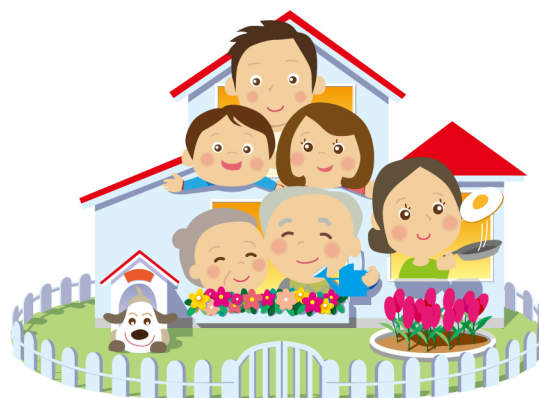
参考
資料

文書例・チラシ 23

訪問や、広報で活用していただける文書やチラシの一例を載せています。こちらも自治区の実情にあわせてぜひご活用ください。



■①新規転入者向けあいさつ文書例	24
■②集合住宅の家主・管理組合等向け文書	25
■③自治区紹介チラシ「はじめまして自治区です」	26



step
1

自治区の必要性を再認識しよう



自治区活動とは

自治区の機能

自治区にはどんな機能があるのでしょうか。加入の呼びかけにあたっては、次のような自治区の機能・活動の必要性をしっかりと認識して、なぜ自治区が必要なのか、なぜ自治区に加入してほしいのかを伝えることが重要です。

1. 親睦・交流

スポーツや各種サークル活動などを通じて、住民同士の交流を深める。



2. 文化の保護・伝承

地域固有の文化や自然などの資源を守り、次世代につなぐなど、魅力ある地域づくりに取り組む。



3. 安全・安心づくり

防犯パトロール、防災訓練などを通じた、安全・安心に生活できる環境づくりに取り組む。



4. 生活環境の維持・改善

ごみ拾いや清掃などの美化活動を協力して行い、生活環境の維持・改善を図る。



5. 福祉

子どもや高齢者の見守り活動などを通じて、地域住民がお互いに助け合う環境づくりに取り組む。



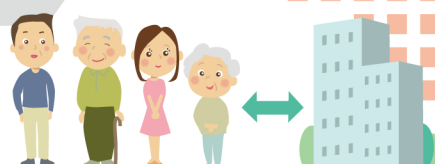
6. 自治機能

地域住民のニーズを反映した、住みよい地域づくりのため、地域住民同士で協力する。



7. 行政とのパイプ役

行政などからの情報の展開や、地域だけでは解決できない課題に対する相談窓口。



■自治区加入のメリット

未加入者の中には「自治区はいったい何をしているのだろう」「区長・組長の顔も知らない」と感じている方が多くいるのが実情です。活動をより身近に感じてもらうためにも、次のような具体的な例（メリット）を挙げ、自治区の必要性を伝えることが必要です。

例① 地域行事の開催（親睦・交流、文化の保護・伝承）

地域の行事に参加することで、子どもから高齢者まで、幅広い世代の方と接することができます。さまざまな活動を通じて地域でコミュニケーションをとる機会になり、絆を深められることから「いざ」という時に助け合える関係を築くことができます。

例② 防犯灯の設置・維持（安全・安心づくり）

主に電柱に設置される防犯灯は、全て市が行政負担で設置・維持管理されていると思われがちです。しかし多くの防犯灯は、自治区が設置・維持管理しています。区費や市の補助金・交付金から、その設置・維持費用を負担し、地域の安全が守られています。

例③ 防災訓練の実施や物資の備蓄など（安全・安心づくり）

災害時の初期消火活動、避難誘導などに自発的に取り組むことができるよう、地域で自主防災組織を作り、訓練などを行っています。また、災害用の備蓄品などの整備・管理も行っています。

例④ 防犯パトロールの実施（安全・安心づくり）

子どもや高齢者を事件や事故などから守るため、「防犯パトロール」などを実施しています。地域が一丸となり安全・安心に取り組む姿勢は、地域内での犯罪や事故の発生抑止につながっています。

例⑤ ごみステーションの維持管理（生活環境の維持・改善）

自治区では区内の皆さんがごみを出しやすいように集積場所（ごみステーション）を設けています。また、快適に利用できるように清掃や補修など維持管理も行っています。

例⑥ 見守り活動（福祉）

高齢者が孤立せず、安心して暮らせる環境をつくるため、自治区では、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯に対し、積極的な声かけや訪問、サロン活動などを通じて、地域住民が主体となって高齢者を支えるまちづくりを行っています。

例⑦ 地域の課題解決（行政とのパイプ役）

地域の困りごとがあれば、自治区を通じて行政に相談することができます。自治区を通じて相談することで、個人の問題ではなくその地域全体の問題とすることができます。

●コラム：災害時こそ自治区！

自治区活動に無関心な人にとって、直接メリットがあり、伝わりやすいのは、安全・安心な地域づくり＝すなわち、防災・防犯活動です。個人の力だけではどうしようもないような災害や犯罪に立ち向かうには、地域の結束が必要です。大規模な震災が起きた場合、市や消防、警察などの機能は著しく低下します。災害の初動対応は、地域で対応する共助の部分が大変重要となります。

過去の災害では、地域が迅速な救助活動や消火活動などを行い被害を最小限に抑えたケースもあります。

【東日本大震災の例】

平成 23 年に発生した東日本大震災では、自治区・自主防災会の方が率先して避難誘導を行いました。また避難所生活では、いち早く自治区や地域のリーダーの方が声を上げ、自ら被災したにもかかわらず情報収集にあたり、避難者名簿の作成や必要な物資の聞き取り調査を行い、災害対策本部に情報提供したとのこと。さらに、高齢者や障がいのある方の安否確認なども行いました。

また、被災していない周辺の自治区・コミュニティ団体からの炊き出しの支援もあったそうです。災害発生から支援物資が届くまでの 2・3 日の間は、地域の支援がとても重要な役割を果たしました。

日頃からの自治区活動が活発な地域ほど、避難所においてもコミュニティ活動が機能し、支え合いや助け合い意識が高かったと言われています。

■加入率低下による影響

自治区の活動は、「地域で人と人とのつながりをつくる」大切な役割を果たしています。加入率が下がると、地域の協力体制や、健全な地域づくりに影響が生じます。

【考えられる影響】

① 連帯感の欠如

日ごろの隣近所とのコミュニケーションが少なくなることによって、支え合い・助け合いの意識が低くなり、非常時の対応が困難になる。また、地域内のモラルが低下し犯罪の多発につながる。

② 活動の停滞

活動の新たな担い手不足などにより、防犯・防災・環境美化等の各種活動の継続に支障をきたし、良好な生活環境が維持できなくなる。

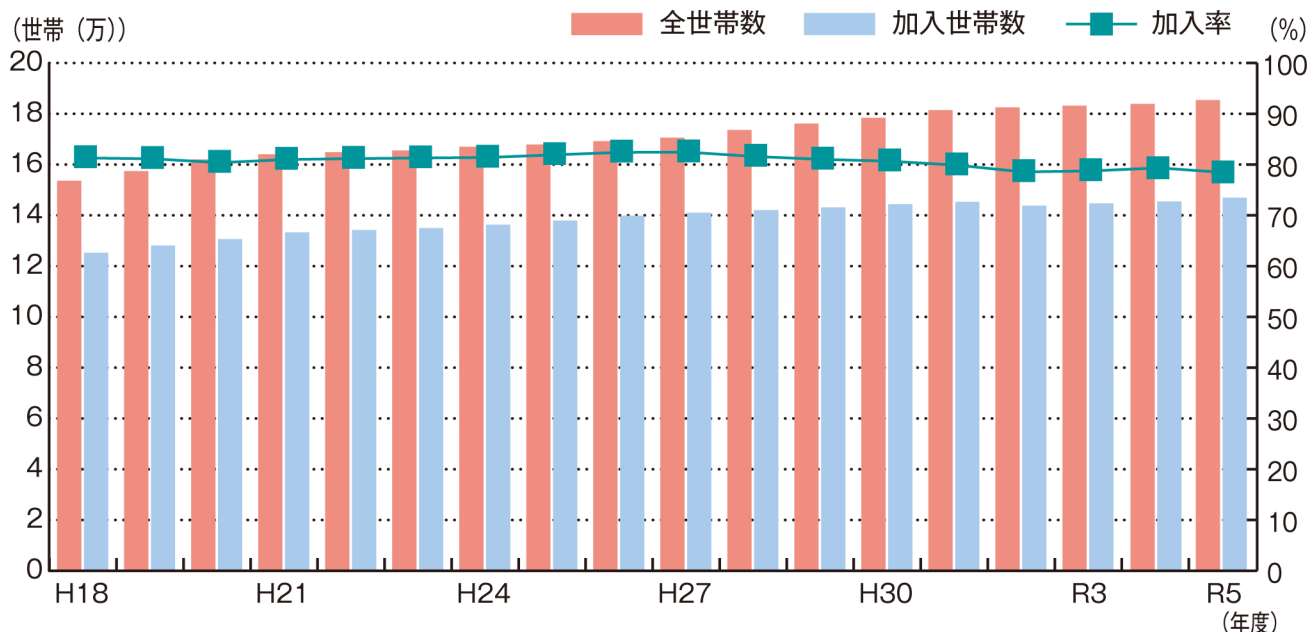
③ 区費収入の減少

活動の費用が減り、活動が十分に行えなくなるほか、住民同士の不公平感につながる。

令和5年4月1日現在、豊田市には298の自治区があり、加入世帯数は約14万5千世帯。加入率は78.7%となっています。この数値は近隣の市町村の中では高い結果です。しかし、毎年ほんの少しずつですが加入率が減少傾向となっています。

【豊田市全体の加入率推移】

令和5年度【全世帯】184,884世帯 【加入世帯】145,497世帯 【加入率】78.7%



■ 加入率低下の原因

自治区加入率低下の主な原因として、一般的に次のようなことが言われています。

① 生活の利便性向上や住民の価値観の多様化

- ・簡単に情報や物が手に入る世の中になり、地域で助け合う機会が少なくなっている。
- ・プライバシーを知られたくない人や自治区活動に無関心な人が増えている。

② 生活スタイルの多様化

- ・単身世帯や共働き世帯の増加、核家族化・少子高齢化などにより、自治区活動に参加する余裕のない人や役員になりたくない人が増えている。

③ 集合住宅の増加

- ・ゴミ出しなど、管理組合で十分対応できるので、自治区の必要性を感じない。
- ・マンション等に短期的に居住する人が増え、自治区に加入しない人が増えている。

④ 少子高齢社会の到来

- ・子どもに関わる行事が減少したことにより、自治区に加入しない人が増えている。
- ・高齢により、自治区活動に対する負担感が増している。
- ・高齢者施設への入居等による空き家が増加している。

step
2

活動を始める前に心がまえをしよう



▶ 加入促進活動に重要な3つの心構え

point
1

加入を強制するような呼びかけは逆効果です。

「自治区に加入することは当然！」が通用しない時代になっています。今は“みんなに加入してもらうにはどうするか”という時代です。一人ひとりの力が地域づくりを支える力となることをしっかり伝える必要があります。

point
2

加入の利点(メリット)をしっかり伝えましょう。

例えば何か商品を買うとき、自分に必要が無いものは買わないのではないのでしょうか。

もちろん自治区は商品ではありませんが、加入するならやっぱりメリットがほしいというのが人間というものです。しっかりと自治区について理解し、伝えられるようにしましょう。

point
3

区民との信頼関係が重要です。

加入前の対応も、加入後のおつきあいも大切にしましょう。「自治区って何をやっているのか分からない・・・」などと感じられてしまうと、退会などトラブルの種になります。



step
3

実際に加入の働きかけをしてみよう



» 訪問編①

■ 訪問前の準備をしっかり行う

訪問活動にあたって、ただ訪問するだけでは、効果的な活動とはなりません。訪問前には、入念な準備を行うことが成功率を上げる秘訣です。

認識の共有をする

1. 自治区の役割を再確認する

- ・自治区の役割を再確認しましょう。(1～3 ページ)
- ・自治区の活動内容の一覧を作成しておきましょう。

2. 未加入世帯を把握する

- ・新築の分譲地、マンションなどの情報を収集し、転入者の状況を常に把握しましょう。
- ・マンションなどの集合住宅については、家主や管理会社を把握しておきましょう。

【現状把握の方法（例）】

■ 地図を活用する

区域の地図(例えば防災マップ)に未加入世帯を書き込むなど、情報を見えるようにすると現状がよりわかりやすくなります。

■ 転出入、開発情報を共有する

空家、取り壊しになった場所、新たに転入した家や区域、集合住宅の開発計画に留意し、役員会等で情報を共有しましょう。

■ アンケート調査をする

自治区活動への認識やどんな活動であれば参加できるか等、未加入世帯を含め、住民みんなの意見を確認します。イベント時の聞き取り、意見交換会の開催といった方法もあります。

3. 心がまえを共有する

- ・加入促進活動に重要な3つの心がまえ(5 ページ)を確認しましょう。

資料の準備をする

活動内容や組織体制の説明などを行うときは、口頭のみで説明するよりも資料をあわせて提示するほうが伝わりやすく、理解もされやすいでしょう。

基本となる資料

① あいさつ文(新規転入者向け)

新規転入者には、自治区一同で歓迎しているという気持ちを表すことが必要です。

参考文書例：23 ページ(または自治区運営の手引参照)

②自治区の案内チラシ・加入の申込書

チラシは絵や写真などを使い、自治区活動の雰囲気が伝わるものを作成しましょう。
イベントのチラシなど、自治区活動が具体的にわかる資料を用意すると効果的です。

③訪問者の名刺

連絡先を記載し、訪問した世帯が自治区等に連絡できるようにしましょう。

④総会資料・自治区だより

自治区の実際の活動や区費が分かるものを用意しましょう。

⑤ごみカレンダー

ごみの収集は、生活への関わりが深く、未加入者が関心を持つきっかけになります。

※また、資料はきちんと整えて（ファイルして）お渡しする等、細かい配慮をすることでより良い印象を持ってもらいやすくなります。

訪問する時期、人を決める

1. 人数

- ・ 2～3人が良いとされています。可能な限り役員が同行しましょう。
- ・ 女性や若い人が同行すると、聞き手が受ける印象もやわらぎ、話を進めやすいでしょう。
- ・ 訪問者は区長や組長など、各自治区の体制や実状に応じて決めましょう。
- ・ 初回の訪問で加入を拒否された場合には、訪問者を変えるなど工夫してみましょう。

2. 時期

- ・ 転入者の場合・・・居住開始後、できるだけ間を置かずに訪問。
- ※転入者への訪問は、できるだけ入居後1週間以内に行うようにすると効果的です。
- ・ 既居住者の場合・・・年度の切り替わる時期やイベントなどの開催に合わせて訪問。

3. 時間帯

- ・ 食事時や夜間はなるべく避けるなど、相手に応じて時間帯を考慮しましょう。
- ・ 休日の午前中はゆっくり休んでいることが多く、訪問を避けたほうが良いでしょう。

4. 持っていくもの

転入者の場合	既居住者の場合
●あいさつ状 ●加入促進チラシ ●入会申込書 ●総会の資料（自治区の活動内容や区費） ●イベントの案内チラシ ●その他自治区の独自の資料 （地域ならではの伝統に関する資料） ●自治区の区域図	●加入促進チラシ ●入会申込書 ●総会の資料（自治区の活動内容や区費） ●イベントの案内チラシ ●その他自治区の独自資料 （地域ならではの伝統に関する資料）

訪問時に何を説明するか考える

- ・活動内容を説明するとともに、災害時に大きな力となる自治区等のメリットを伝え、関心を持ってもらうことが大切です。また防犯灯の維持管理など、**地域のみなさんのために区費が役立っていることを伝えましょう。**
- ・転入世帯の場合、居住開始直後に訪問し、**ごみ出しのルールについて説明すると、自治区等の必要性を認識してもらいやすい**でしょう。

》訪問編②

■実際に訪問する

訪問する際は、自治区への加入を強制するのではなく、一人ひとりの力が地域づくりを支える力となることを伝えることが重要です。加入の必要性を理解してもらい、自発的に加入してもらうことが重要です。

初回訪問時の呼びかけ方

- ・自治区に関する簡単な説明にとどめ、加入を勧めます。
- ・おおむね5分程度に済ませると良いでしょう。
- ・加入を断られても、まずは資料を受け取ってもらいましょう。

■その場で加入の意志表示があった場合

加入申込書等、必要な手続きをとってもらいましょう。

■加入について決めかねている場合

資料を渡し、「後日再度伺いますのでぜひご検討ください。」と伝え、自治区内で共有するための訪問記録を残しておきましょう。

■自治区を否定する場合

相手側の言い分を聞き、理解できる部分については共感しましょう。

粘り強く、今後の自治区活動に協力してほしいことを伝えましょう。

不在時や2回目以降の訪問

不在時

資料を郵便受けにいれ、後日訪問するようにしましょう。

2回目以降の訪問

1週間程度時間を置き、改めて資料を持参して説明し、加入を促します。

■加入について決めかねている場合

決めかねている要因を確認しましょう。ただし、深く聞きすぎると相手が負担に感じ逆効果になりますので、状況に応じて時間を空けるなどしましょう。

■加入を断られた場合

イベントの度に案内書を持参して参加を勧める、または訪問する人を変えるなどして、継続したアプローチを心がけましょう。

» 訪問編③

■ 想定される質問を把握する

加入のお願いのために訪問すると、さまざまな質問をされることが想定されます。

ここでは、想定される質問とその回答例をいくつか掲載しましたので、参考にしてください。様々な質問にしっかりと誠意を持って、回答できるように準備していただくとともに、回答できない質問については、自治区内で相談の上、後日きちんと回答しましょう。

なお、回答は、あくまでも一般例です。実情にあわせてアレンジして活用してください。

Q 1 自治区ってなんですか？**A 1**

同じ地域に住む住民が自主的に結成し、運営している団体です。地域住民の親睦を図るとともに、地域の安全・安心に取り組み、自分たちの地域を住みよいまちにすることを目的として活動しています。

Q 2 自治区はどんな活動をしているのですか？**A 2**

自治区では、会員相互の親睦を図りながら、環境美化、防犯パトロール、防犯灯の設置・維持管理など、様々な活動を通じ、安全・安心なより良い地域づくりを行っています。
(※実際に自治区で行っている事業を確認した上で回答しましょう。)

Q 3 豊田市に自治区はいくつありますか？**A 3**

298 自治区あり (令和 5 年 4 月 1 日現在) 加入世帯は約 14 万 5 千世帯です。

Q 4 自治区の区域は何を基準に区切られていますか？**A 4**

特に明確な基準はありません。過去からの歴史的な経緯で決められています。自治区によって広さや加入世帯は様々です。

Q 5 自治区に加入するとどんなメリットがありますか？ **よくでる！****A 5**

(※Q2「自治区はどんな活動をしているのですか？」に関連させて、加入するメリットを伝えながら話すと良いでしょう。)

【例】・自治区活動を通じて顔見知りになり、コミュニケーションがとれ、日頃の支え合いや災害時の助け合いにつながります。

- ・環境美化やごみ集積所の管理など、地域の環境美化を推進しています。
- ・各種レクリエーション行事の開催や地域団体の育成に努力しています。
- ・市の広報誌の配布や、回覧板での情報提供を行っています。
- ・道路・側溝・道路照明の改善など、日常の環境整備に関わる課題を行政に的確に要望できるので、安全・安心なまちづくりにつなげることができます。
- ・自主防災組織を作り、防災訓練の実施や、災害用グッズの備蓄をしています。

Q 6 自治区に入らなければならないのですか？ **よくでる！****A 6**

自治区への加入は強制ではありませんが、防災・防犯・自治区が管理する防犯灯・ごみ集積所など、地域生活に密着した課題は、個人での解決が難しい場合があります。このような課題を解決するために、自治区は取り組んでいますので、ぜひ加入してください。

Q 7 税金を払っているのだから、市がやってくれるのでは？ **よくでる！****A 7**

地域の日ごろの支え合いや災害時の助け合いができる環境づくりは、市だけではできません。地域が主体となって地域の実態に合った方法で身近な課題に取り組み、市の行き届かない部分を補うことで、きめ細やかなまちづくりができます。

Q 8 自治区と市の関係は？**A 8**

自治区は、市の事業に協力することはありますが、市とは別の独立した団体です。市と協力・連携しながら明るく住みよいまちづくりに取り組んでいます。

独立した団体ではありますが、地域課題の解決に取り組んでいる公共的団体であり、解決にあたっては、防災や防犯など、市以外の関係団体と協力して取り組む場合も数多くあります。このことから、自治区の運営や事業に対する支援として市から補助金等の交付を受けています。

Q 9 自治区の区費はどのように使われていますか？**A 9**

皆様からお預かりする区費は、以下のような事業に使われています。

- 【例】・防犯灯の維持管理のための費用
・夏祭りなどの親睦のためのイベント
・地域の環境美化に関する費用

(※総会資料の予算決算資料等を用意し、説明できるようにしておきましょう。)

Q 10 区費は誰が管理していますか？**A 10**

- ・会計や会計監査などの担当者を設けて、適正に管理しています。
 - ・収入や支出の内訳は、総会などの場で会員に公開しています。
- (※総会資料の予算決算資料等を用意し、説明できるようにしておきましょう。)

Q 11 個人情報の管理はどのように行っていますか？**A 11**

自治区で定めたルールにより、区長や役員できちんと管理しています。
(※区長会作成の「自治区活動における個人情報取扱いガイドライン」を参考に自治区で個人情報の取扱い方法を明確化・文書化しておくといいでしょう。)

Q 12 区費を支払いたくても支払えない場合はどうすれば良いですか？**A 12**

- 回答例①：一度、役員で協議して、後日回答します。
回答例②：(すでに減額等を実施している場合) 減額について説明します。
(※特に年金では区費が支払えず、退会する高齢者の方も増えているようです。)

Q 13 役員・組長等の役員ができないので入れません。**A 13**

年齢を重ねるほど、地域での支え合いや人とのつながりが必要となります。活動については、できる範囲で構いませんので、ぜひ参加してください。

Q 14 自治区に加入していなくても、行事に参加することはできますか？**A 14**

ぜひ参加してください。行事に参加することで楽しさを知っていただき、隣近所との交流を広げていくことで、加入を検討していただきたいと思います。

Q 15 自治区活動でケガをした場合はどうなりますか？**A 15**

自治区長で組織する豊田市区長会が「豊田市区長会共済会制度」を整備しています。自治区が行うボランティア活動等公益活動中に起きた事故に対し、傷害や賠償責任を保障しています。この制度は、加入や登録の手続きの必要はありません。

(※なお、傷害については見舞金程度ですので、必要に応じ自治区で保険に加入してください。)

未加入の理由や状況は世帯によって様々です。相手の状況にあわせることでより効果的に加入促進を進めることができます。

対応の例

1. 新しく転入してきた世帯

■地域の施設等の案内

新しく転入してきた世帯の方は、地域の公共施設・医療機関、災害時の避難場所についての情報を十分持っていません。それらの情報をまとめた地図や案内をお渡しすると、自治区を好意的にとらえ、加入に関心を持ってもらえます。

■子育て世帯への工夫

子どもがいる世帯には、お祭りや運動会などの行事、見守り活動、子ども会の説明など、子どもとのつながりを活かした案内をすると効果的です。

■加入特典の配布

他市町村では、消火スプレーや、多機能懐中電灯など、生活で役立つものを新規加入者に配布する自治区もあるそうです。

2. 以前から加入していない世帯

■案内の時期や対象を変える

以前に加入を呼びかけたことのある世帯には、前回の訪問から間をあけたり、年度替わりに再度訪問するなど、案内の時期を検討しましょう。

本人ではなく、身内の方をお願いするのも良いでしょう。

■行事への参加を呼びかける

自治区等の今後の予定を案内し、未加入世帯にも行事への参加を勧めましょう。活動内容を知ってもらうことで、加入を呼びかけるきっかけになります。

■つながりの大切さを知ってもらう

日常生活で困ったことがあれば助け合うなど、日々のつながりを大事にしている自治区の意義を知ってもらうことが必要です。

》個別対応編① ■ アパート・マンション居住者への呼びかけ

アパート・マンションの居住者は、自治区活動に無関心な人が多く、加入の呼びかけに苦慮します。居住者への粘り強い呼びかけはもちろんのこと、アパートオーナーや住宅管理業者に、居住者の加入のための協力を依頼することも必要です。

活動に参加できなくても、居住者は区費を支払うことで、防犯灯などの共益費用を負担していただけることになり、自治区にとっても財源確保につながります。

呼びかけの例

1. 家主自身に対する呼びかけを行う

■ アパートオーナー自身の加入

オーナー自身にも賛助会員として加入を依頼します。

■ 家賃上乗せ方式への協力

家賃に区費を上乗せする方式です。既に居住者がいる場合は、途中から切り替えてもらうことは難しくなります。アパート新築の場合など早めにオーナーに協力を依頼し、あらかじめ区費を家賃に上乗せすることを説明してもらいます。

■ 住宅管理業者に直接交渉し、アパート単位での加入を依頼

学生アパート等には会費をオーナーに直接支払っていただくなど、アパート単位での加入を依頼します。居住者には、入居時に、自治区に加入していることを伝えます。



注意

家賃上乗せや、アパート単位で加入してもらう場合、直接会わなくても区費が入るからといって普段のおつきあいをおろそかにしないようにしましょう。入居者は区費を取られているばかりと感じてしまい、自治区に対する不信感や退会につながりかねません。

■ アパートオーナーが分からない場合

オーナーが遠方に住んでいる場合があります。その場合は住宅管理業者に様々な協力を依頼するとよいでしょう。

2. 家主を通じて、入居者へ協力を呼びかける

■ 地域内に住んでいる家主には、自治区の窓口になっていただくよう依頼する。

自治区、家主、入居者、地域のつながりづくりを目指しましょう。

■ アパート建物の周辺の清掃などを依頼する。

負担の少ない範囲でできることから自治区の活動に参加してもらうことで、自治区活動に関心を持ってもらいましょう。

》個別対応編②

■学生・短期居住単身者への呼びかけ

若い学生の方が防災活動やイベント等へ参加することは、活動が賑やかになり、新しい考えも出てくる可能性も増え、自治区にとって大きな活力となります。学生の中には、ボランティアに興味があり、地域に貢献したいと思っている人もいます。

呼びかけの例

■防災・防犯活動など身近な地域の支え合いを例にとる。

一般世帯の呼びかけと同じく、自治区活動の重要性を伝えることが必要です。

■それぞれの事情にあわせて柔軟に対応する

区費の減額について考慮するほか、自治区活動の内容を十分に周知できる機会を増やすことも必要です。できる範囲での活動参加を依頼するなど効果があるでしょう。

学生などから想定される質問と回答例

Q 1 長くは住みません。

よくでる！

A 1

自治区で設置している防犯灯は、安全の確保につながり、ごみ集積所の管理や清掃活動は、住みよい生活につながるなど、自治区の活動は気づかないところでみなさんの生活に役立っています。短期的でも何かの縁でこの地域に住むことになったのでぜひ自治区へ加入してください。
(※区費について、年額か月額か、一部減額できる規定があるかなどについても説明しましょう。)

Q 2 年間を通じて、いろいろと行事に参加しなければならないのでは？

A 2

交流・親睦のために参加してほしいとは思いますが、基本的に自由参加なので、ご都合に合わせて参加してください。

Q 3 単身で、仕事が忙しく、役員にはなれません。

よくでる！

A 3

回答例①：恐縮ですが、役員は1年ごとの持ち回りにしています。
回答例②：休日の行事のお手伝いだけでも構いません。
回答例③：区費を納めていただくだけでも、大変助かります。

Q 4 住民票を以前住んでいたところから移していませんが・・・

A 4

この地域に住んでいる方であれば、加入は大歓迎です。(又は問題ありません。)
(※自治区の規約などに取り決めがある場合は、それに従ってください。)

Q 5 学生が長期休暇中に参加できるような活動はありますか？

A 5

自治区の夏祭りやスポーツ大会などがありますが、学生の方には地域でのボランティア活動のほか、さまざまな面で助けてほしいと思っています。

外国人の方は、言葉の壁があり、自治区側も外国人住民側もお互いに敬遠しがちです。しかし、ごみの出し方や文化の違いなどでトラブルになることもしばしばあります。

外国人の方が自治区に加入してもらえれば、日本での生活ルールをきちんと理解してもらうことにつながります。また災害時にほかの外国人の方へ情報を伝えてもらう役割も期待できます。地域で生活する一人として、参加してもらえよう、ぜひ自治区から呼びかけましょう。

呼びかけの例

■区費の習慣がない国もあります。

イラストや写真などを使って、自治区を紹介する資料を作成し、加入を呼びかけましょう。

■「はじめまして自治区です（26 ページ）」の外国語版を活用する。

区長会事務局からお配りしているほか、区長会のホームページにも掲載しています。

・豊田市区長会ホームページ

<https://www.toyota-kuchokai.org>



■負担の少ない範囲で活動に参加してもらおう。

夏祭りなどの行事や近隣の清掃など、まずは負担の少ない範囲で活動に参加してもらおうようにしましょう。

■お互いの文化の違いに配慮する。

まずは、こちら側から配慮する姿勢を見せることが大事です。

■意見交換の場を設ける。

お互いの疑問点などを解消する場を設けましょう。

■翻訳・通訳派遣制度を活用する。

作成した文書の翻訳や、呼びかけの際に通訳が必要な場合は、市役所地域支援課で「通訳派遣及び翻訳支援事業（自治区運営の手引参照）」を実施していますので、ご相談ください。

●コラム：空き家情報バンク「地域面談制度」

豊田市では、山村地域等の過疎対策を目的として、空き家情報バンク制度を実施しています。地域の空き家の情報を、田舎暮らしを希望する方へ情報提供することで、定住につなげ地域活性化を図ることを目的としています。

特に山村地域等では、昔からお互い様の精神で地域の住民同士で支えあいながら成り立ってきました。転入することはその地域の一員として生活することを意味します。転入者は、地域の営みを理解し、地域に溶け込む努力も必要です。一方で、地域（自治区）側も転入者に地域のことを理解してもらう努力が必要です。そこで、空き家情報バンク制度では、地域に住んでいる方と、地域に移り住みたい方の間で「地域面談」を実施しています。

一般的な自治区では、転入者ごとに面談の場まで設けることは現実的ではありませんが、自治区と転入者との間でどのようなことを話し合い、共有しておくとういのか、一例をご紹介します。

【地域面談でよく話される内容】

1. 地域の特徴や、行事、役目などの説明

その時になって、「昔から決まっているから」と後出しで説明しては、反感を買うというものです。しっかりと、どのような行事を行っているのか、どのような役目をお願いしているのかを事前に伝えておきましょう。

2. 地域住民による地域情報の説明

転入者は、新しく来たばかりの土地で不安を感じています。「ここにこのような名所がある。」「病院はここにある。」など地元の方から親切丁寧に教えると、安心できるとともに、地域に好感を持っていただけます。

3. 転入者側の希望

例えば、「身体的なハンデがある。」「土日が仕事のため、平日しか当番ができない。」など転入者側から地域に対しどのような希望があるか、事前に共有しておくとう自治区側も安心です。



地域面談の様子



地元住民による、地域や物件の案内

step
4

自治区の活性化を考えよう



» 一般例①

■ 自治区活動の広報

日ごろからの活動のようすを伝え、自治区活動に関心を持ってもらうことが重要です。「区費を取られるだけで自治区は何もしていない、してくれない」等の誤解を生まないためにも、しっかりと広報を行いましょう。

■ 自治区だより等の活用

地域の話題や、自治区の活動紹介を盛り込んだ自治区だよりの作成・配布は基本的な取り組みといえます。そして、自治区だよりに限らず、作成する文書には必ず“連絡先”を記載しましょう。特に、電話番号だけでなくFAX番号やメールアドレスを明記しておくとし、「いきなり電話はちょっと…」という人でも連絡が取りやすくなります。未加入者も加入の意思表示がしやすくなります。

■ 自治区の活動案内

活動案内文を作成しておくとし、訪問時も含めて様々な場面で活用できるでしょう。
(内容例:組織図、役員選出方法、区費等の概要、日頃の活動紹介、会館の活用方法など)

■ インターネットの活用

インターネットのブログやホームページ等を活用するとしいつでも情報を得ることができ、忙しい方にも見てもらえる可能性が増えます。作成するときには、見やすいページを心掛けるほか、活動の写真を多く使って、堅苦しいイメージを与えないようにしましょう。

■ 行事やサークル活動での呼びかけ

子どもから大人まで幅広い年齢層が参加できる祭りやスポーツなどは、未加入者も参加しやすい行事です。実際に参加してもらうことで、つながりができ、加入につなげやすくなります。また、自治区内のサークル活動にも関心を持ってもらう良い機会です。

■ 自治区活動の魅力を伝える冊子を作成

自治区に入っているけれど、活動にはあまり参加しないという方も多くいます。活動を分かりやすく伝えるリーフレットを作成して、参加してくれる人を増やすことは、いずれ自治区の役員を担ってくれる人員を育成することにもつながります。

■ イベント等の催しもののチラシの裏面を活用

各種イベントをお知らせするチラシの裏面に、自治区活動の必要性や普段の活動を紹介する記事を載せておくことで、費用負担を抑えながら、PRすることができます。

» 一般例②

■ 普段のコミュニケーション

加入をしてくれたあとも、普段からのコミュニケーションを十分に図るなど、自治区を身近に感じてもらうことが、退会予防のためには必要です。

自治区加入後の配慮

新規加入者を、役員会等で紹介したり、日ごろからあいさつや声かけをしたりするなど、できるだけ早く自治区等になじんでもらえるよう配慮しましょう。

新規加入者が安心して地域で過ごせるようにすることで退会予防につながります。

日ごろの取組

■ 顔の見える関係づくり

災害時など、いざというときのため、日ごろから顔の見える関係づくりをしておくことが大切です。

■ 自治区等の情報周知

活動をしっかり広報し、参加するきっかけをつくりましょう。会員は必要な情報を得られたり、活動に参加したりすることで、自治区の意義を実感できます。

■ 個別の事業に合わせた運営

【役員】役員や組長の仕事は、ひとり暮らし高齢者や障がいのある人にとって負担となる場合があります。自治区内で十分に協議し、「役員・組長を無理矢理やらされるから退会する」といった人が出ないようにしましょう。

【区費】世帯の状況を考慮し、必要であれば減免などの対応を検討します。

令和3年度に行った自治区実態調査では43%（112自治区）が何らかの形で区費の減免制度があると答えています。

減免の例：ひとり暮らし世帯・高齢者世帯・生活保護世帯・障がい者世帯等

退会してしまった場合

■ 退会理由の把握

なぜ退会してしまったのか、理由を把握して今後に活かしましょう。

例：退会者にアンケートを実施する等

区長さんや役員さんだけでは、取組が単発的になり、不十分となる可能性があります。加入促進や活動活性化を自治区全体の問題としてとらえ、取り組んでいくことが必要です。また、加入促進に限らず、新しい担い手育成のための組織づくりを考えると良いでしょう。

■自治区内で体制づくりをする。又はプロジェクトチームを設置する。

みんなで知恵を出し合いながら、組織的に検討していくと、新しいアイデアが見つかる可能性があります。また、プロジェクトの委員には、当事者意識が芽生え、今後の自治区活動の担い手育成にもつながります。

【加入促進活動における体制・役割づくりの例】

- ①広報担当・・・準備物（6 ページ参照）の作成や、加入案内チラシの作成を行う。
- ②交渉担当・・・開発業者、アパートの家主、管理組合等との交渉。
- ③転入者の把握担当・・・組長等が把握して、役員会で報告する。
- ④訪問担当・・・実際に訪問し、加入促進活動を行う。

一部の人で取り組むことになった場合は、いつ、どのように加入を呼びかけたかなどを、きちんと引き継げるようにしましょう。継続的な加入促進活動は自治区加入率の低下を防ぐことにつながります。

また、活動の結果から見えてくる問題点などもまとめておくと、今後に活かすことができます。

■組の合併

高齢化が進み、世帯数が減っている組では、組長のなり手が不足するなどの問題が発生します。隣接する組と合併することで、負担軽減が見込める場合があります。（ただし組の区域が広範囲になってしまうなどデメリットもあります。）

●コラム：口コミの力

現代は、情報があふれる時代です。テレビやラジオだけではなく。スマートフォンでも企業広告・ニュースなどの様々な情報が個人の手に届きます。自治区の広報も、あふれる情報の間を超えて、区民に届けなければなりません。

この時代に一番効果的なのは、「友人・知人による口コミ」です。友人・知人からのオスমেに、人は影響されるというデータがあります。現代にあふれるたくさんの情報を自分で取捨選択するより大変楽ですし、価値観や趣味趣向の近い友人がオスメしてくれるもの＝信用できるものだからです。

自治区でも同じように「自治区活動楽しいよ!」「いっしょにやろうよ!」といった口コミが自然に展開されるようになれば、自治区の活性化につながると言えます。逆に言えば、自治区に対する誤った認識が、広まらないようにしたいものです。

平山自治区（豊南地区）では、ホームページの開設や自治区のLINE公式アカウントの活用、スマホ・パソコン塾の開催等、デジタルツールを活用した自治区運営が行われています。「課題解決の為の方法を考えたら自然とデジタルツールを活用する流れになりました」と話す鈴木区長さんにお話を伺いました。

取材日：令和3年12月23日



●どんな活動をされていますか？

令和2年度に自治区ホームページの開設、令和3年度の9月からは自治区のLINE公式アカウントを作成し、毎日自治区に関する情報を発信しています。また、より多くの地域の方が情報を活用できるように、自治区内の団体にお申し、わくわく事業補助金を活用して自治区民向けのスマホ・パソコン塾を開催しています。



●これらの活動を始めるきっかけはありましたか？

特にこれと言ったきっかけはありませんでしたが、「自治区が発信した情報を、いつでもどこでも確認できるようにしたい」「回覧を削減することで組長の負担や紙の使用量を削減したい」等、自治区として解決したい課題はありました。**課題解決のためにできることを考えた結果、自然とホームページやLINEを活用する流れになりました。**

スマホ・パソコン塾は、ホームページやLINEの活用を検討する中で、65歳以上にアンケートを取ったところ、**90名以上の方から「スマートフォンやパソコンの講習会を受けたい」というニーズがあったので**開催しました。どの回も満員で、大変好評です。また、受講者の方に対して自治区のLINE公式アカウントを紹介してもらっていますので、友達登録数増加に繋がっています。

●導入の結果、どのような効果がありましたか。

自治区のLINE公式アカウントに全ての回覧物を掲載しており、組の全員が自治区のLINE公式アカウントを友達登録したため紙での回覧を廃止した組もでてきました。このような組が今後増えていくとよいと思っています。

また、自治区ホームページには役員全員の写真や総会資料等、自治区の情報は全て掲載していますので、若い方にもどのような活動をしているか、理解してもらいやすいと思います。

●苦労した点や課題はありますか。

自治区LINE公式アカウントの友達登録数は開始3か月で約1000世帯中200人で、まだまだ登録率は低いと思います。急激に進める必要はありませんが、今後どうやって広めていくかが課題です。

また、役員間の連絡手段にLINEグループを活用しているため、役員が交代する時は、新しい役員に一から説明する必要がありますが、地域全体のIT意識向上に繋がると前向きにとらえています。

●導入の際に気を付けたことはありますか。

自治区活動の全てをオープンにすることと、なるべく頻繁に更新することです。多くの方が自治区活動に興味を持つことが、活性化に繋がると思います。また、デジタルが苦手な方向けにはスマホ塾等のフォローをするほか、回覧を廃止した組にLINEを使えない方がいた場合は、自治区から直接回覧内容を紙で配布するなど、**様々な方をフォローする体制は大切**だと思います。



↑平山自治区のホームページ
自治区の情報が詰まっています。



←自治区のLINE公式アカウント
回覧やおしらせをすぐに見ることができます。

ポイント

■課題解決の手段として、ホームページや自治区のLINE公式アカウントを活用。

⇒高齢化する組長の負担軽減や、自治区活動を身近に感じてもらうため。

■アンケートの結果、必要性を感じたのでスマホ・パソコン塾を開催。

⇒事業を実施する前に地域の声聞くことが重要。

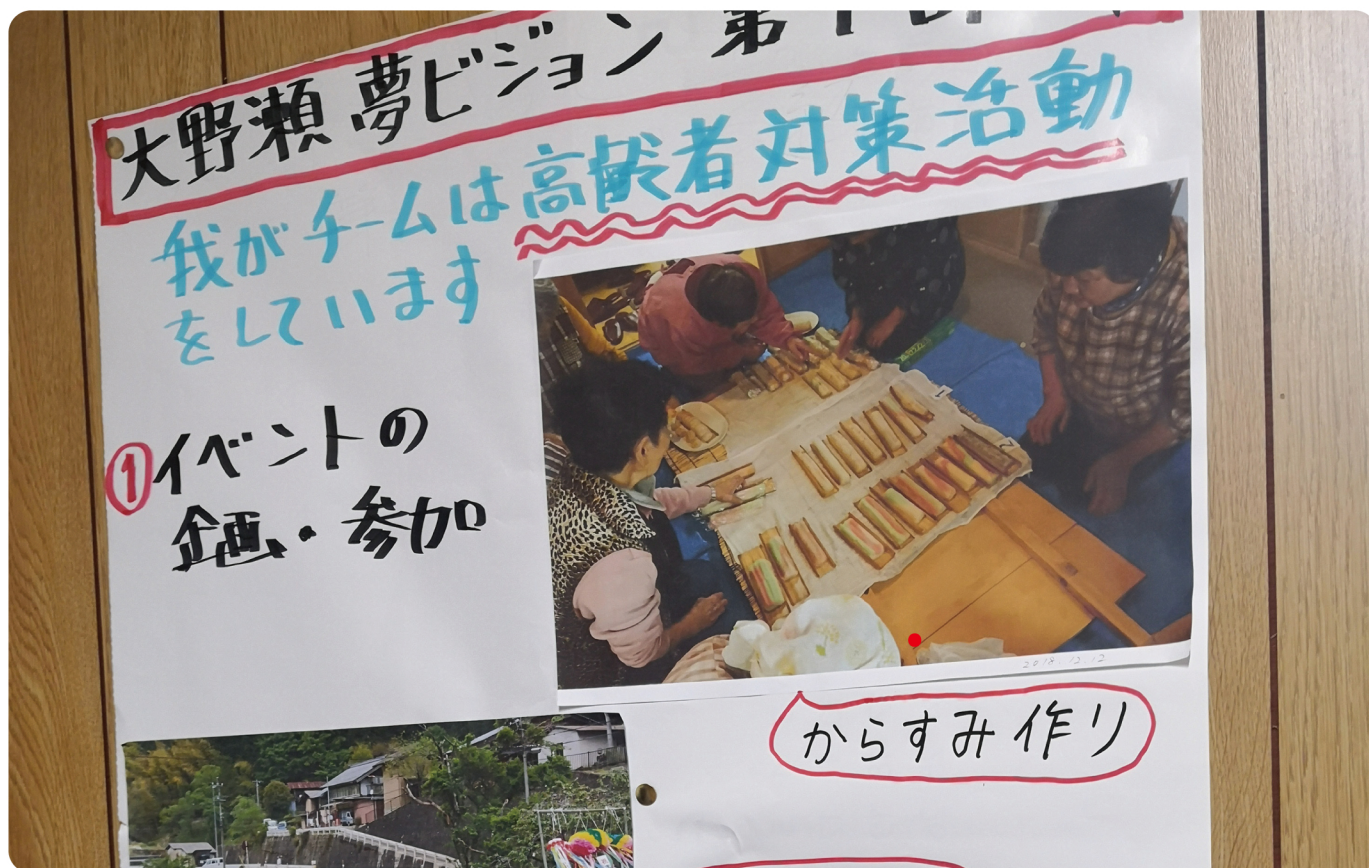
⇒地域住民全体でデジタルを活用できるようになるため。

■デジタルツールが苦手な方をフォローする体制が大切。

⇒デジタルツールに取り残される地域住民をつくらないため。

大野瀬町自治区（稲武地区）では、自分たちが住む地域についての計画「大野瀬町夢づくりビジョン」を作成し、それに沿って活動を行っています。鈴木章五区長さんと計画実践者の加藤篤幸さん、鈴木利介さんにお話を伺いました。

取材日：令和4年1月17日



●大野瀬町夢づくりビジョンについて教えてください。

鈴木(章) 高齢者対策などをはじめとした5つの分野にわたる集落ビジョンです。「10年先に大野瀬町や組が自立して存続できるようにどうしたらいいか」を地域住民で考え、自治区の役員が代わっても取り組めるよう形にしたものです。ビジョンをもとに5部会を設置し、自治区から部会に活動費を出し、毎年成果報告をしてもらっています。



鈴木章五 区長

●どのような活動をしていますか。

鈴木(章) 部会ごとにプロジェクトを複数立ち上げて、目的に沿った活動をしています。
具体的には、農地・森林対策部会は農事組合法人と協力して獣害対策の勉強会をしたり、農地区画の整理を進めています。Uターン・Iターン・空き家対策部会では、地域に縁のある方を対象にふるさとの魅力を伝えるイベントを開いたり、ホームページで地域の魅力を発信しています。また、プロジェクトの一環として、サブ集会所を整備し「山の駅 大野瀬」と名付けました。

●「山の駅 大野瀬」について教えてください。

鈴木
(章)

喫茶店だった空き家を「ありとあらゆる場」とすることを目的に改修したものです。各部会の活動拠点として活用しており、壁には部会の活動報告や、空き家情報、観光情報等を掲示しています。地域の活動拠点としてだけでなく、地域バスの待合として、避難所として、誰でも、どんな目的でも使えるようにしています。フリーWi-Fiも整備し、ここで高齢者向けのタブレット教室も開催しました。食器やお茶も置いてあり、誰でも使いやすくすることで、地域内外問わずふれあいが促進されることを期待しています。ゆくゆくは地域の方の農作物を山の駅大野瀬で販売したり、地域の観光拠点とすることも考えています。

●活動のポイント等がありますか？

鈴木
(利)

いくつかありますが、部会やプロジェクトの中心となる人が楽しみながらやることと、外の人とのつながりを大事にすることですね。大野瀬町によく来てくれる人、地域外に住んでいる親類や友人、企業や学生などとのつながりを継続することで、活気が生まれますし、新しい視点も得やすくなります。

加藤

金城学院大学とは約9年前から交流があります。耕作放棄地での農業体験等を通じて魅力を発信してもらっており、令和元年度には移住促進イベント内でハンドベルコンサートを開いてもらいました。前向きに地域活動を発信していると、いろんな団体が興味を持ってくれるので、結果として地域が達成したい目的につながると感じています。



地域住民の鈴木利介さん



↑ 空き家を活用した活動拠点
看板のデザインも自治区住民



↑ Uターン候補者と地域住民の
交流イベントの様子

ポイント

■計画を作るだけでなく、実行組織を作る。

⇒話し合って終わりにするのではなく、実際に動き出すための組織づくりを行うことで、「地域みんなでやるんだ!」という意識づくりにつなげていく。

■地域活動を地域内外に発信する。

⇒地域活動を地域内外に発信することで、外部団体の協力も得られやすくなる。



① 新規転入者向けあいさつ文書例（表）

- ・ 同じ地域に住むことになったことを歓迎する旨を記載しましょう。
- ・ 連絡先（区長・組長・区民会館）は必ず記載しましょう。

〇〇年〇〇月〇〇日

新規転入された皆さまへ

〇〇〇自治区 区長 〇〇〇〇

〇〇自治区への加入のご案内

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび、〇〇自治区内にご転入されたことに対し、〇〇自治区を代表して心から歓迎いたします。

私ども〇〇自治区は、現在、〇〇世帯が加入され、住民の親睦と住みよい地域づくりに取り組んでおります。（詳しくは裏面をご覧ください）。

つきましては、一日も早く地域になじみ、隣近所との友好の輪が広がりますよう、〇〇自治区規約をお届けしますので、ご一読くださいますようお願いするとともに、ぜひ自治区への加入につきまして、ご理解とご協力をお願いいたします。

★あなたの所属する組は〇〇組です。

★組長さんは 〇〇〇〇さんです。

（住所 〇〇〇〇 電話 〇〇〇〇〇〇〇〇）

※不明な点やお困りのことは、下記までお気軽にお問合せください。

【自治区事務所（〇〇区民会館）】

（〇〇町1-1-1 電話 **-* ***)

メールアドレス xxxx@〇〇.〇〇.〇〇

開館時間 月～金 〇〇時～〇〇時

【自治区長】 〇〇〇〇（〇〇町1-2-3 電話 **-* ***)

・なぜ自治区が必要かを積極的にPRできる文面を作成しましょう。

安心・安全な住みよいまちを 一緒に作りませんか！

〇〇自治区は、様々な活動を通じて、安心・安全で、快適に暮らせる住みよいまちづくりを目指し、以下のようなことに取り組んでいます。

1 親睦・交流行事の開催

区民の方どうしが交流し、楽しむ機会をつくるため、夏祭りや運動会、敬老会などの行事を開催しています。



2 安全・安心づくり

防犯パトロール、いつ起きるかわからない災害に備えた防災用具の整備、防災訓練などを行っています。



3 生活環境の維持・改善

ゴミ拾いや清掃などの美化活動を協力して行い、生活環境の維持・改善を図っています。



4 生活環境向上のための活動

清潔で快適なまちを目指し、みなさんで協力して道路や公園・河川の清掃を行っています。



5 地域の課題への対応

地域の課題についてみんなで考え必要に応じて、行政などへ要望し、解決に努めています。

6 その他

子どもの登下校の見守りや、子ども会など地域で活動する各種団体と連携・協力して子育て支援をしたり、高齢者の見守り活動などをしたりしています。

ぜひ一緒に住みよいまちづくりを行いましょう！

②集合住宅の家主・管理組合等向け文書

・一般の転入者向けと同様に、ぜひ協力をお願いしたい旨を記載しましょう。

〇〇年〇〇月〇〇日

家主・管理組合 様

〇〇〇自治区 区長 〇〇〇〇

居住者様の自治区加入へのお願い

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私ども〇〇自治区には、現在〇〇世帯が加入され、住民の親睦と住みよい地域づくりに取り組んでおります。(詳しくは裏面をご覧ください)。

つきましては、居住者様に〇〇自治区の活動内容を知っていただき、近隣の方との友好の輪が広がりますよう〇〇自治区規約等の活動資料をお届けいたしますので、居住者様に自治区への加入をご案内していただきますようご協力をお願い申し上げます。

★この建物の所属する組は〇〇組です。

★組長さんは 〇〇〇〇さんです。

(住所 電話)

※不明な点やお困りのことは、下記までお気軽にお問合せください。

【自治区事務所(〇〇区民会館)】

(〇〇町1-1-1 電話 **-* ***)

開館時間 月~金 〇〇時~〇〇時

メールアドレス xxxx@〇〇.〇〇.〇〇

【自治区長】 〇〇〇〇 (〇〇町1-2-3 電話 **-* ***)

③自治区紹介チラシ「はじめまして自治区です」

- ・新規転入者向けのチラシです。転入者の方へは届出の際に市窓口でお渡ししています。
- ・区長会事務局や市役所の各支所でお配りしているほか、区長会ホームページにも掲載しています。
- ・外国語版もご用意しています。(英語・中国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語)



豊田市では、各自治区が、地域にお住まいの方々の親睦と結びつきを深めながら、豊かで住みよいまちづくりを目指し、自主的に様々な活動を行っています。「まちづくり」や「ふれあいづくり」のため自治区に加入されることをお勧めします。

自治区とは

一定の地域に住む人達が、自ら住みよい豊かなまちづくりを目指して、身近な環境整備など地域における生活上の共通課題、また、少子高齢化社会における高齢者福祉や青少年の健全育成など様々な課題の解決に取り組むとともに、ふれあいまつりやレクリエーション活動を通じ、区民の交流と親睦を図り、区民の連携意識の向上に努めている自主的に組織・運営されている団体です。具体的な活動内容については、裏面をご覧ください。

「人づくり・まちづくり・幸せづくり」を目標に!!

自治区は、その地域に住む人達全員に関する生活上の共通課題の解決や交流を図っています。ごみステーションの管理や防犯灯の設置をするなど生活していれば自治区の恩恵を受けることになるわけですから、全員が加入し皆が公平に責任や役割を負うことが望ましいでしょう。

自治区に加入するには

ご近所の方にお尋ねのうえ、自治区長さん、役員さん、組長さんにお申し出ください。

〈自治区の連絡先〉

自治区の連絡先の検索はこちらから ⇒
<https://www.toyota-kuchokai.org/>



※自治区の者が加入のご案内にお伺いする場合があります。

発行：豊田市区長会(事務局：豊田市役所地域支援課内(0565-34-6629))

自治区の活動は？

自治区では、次のように様々な活動に取り組んでいます。これらの活動は、自治区に住む皆さんの区費やボランティア活動によって支えられています。自治区では、そこに住む住民の皆さんがお互いに協力し合って住みよいまちづくりに向け日々活動を続けています。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

ごみステーションの 設置や維持管理

生活していれば必ずごみは出ます。そのため、自治区では町内の皆さんがごみを出しやすいように集積場所(ごみステーション)を設置しています。更にそこを快適に利用できるよう清掃、補修を行っています。なお、ごみステーションからそれぞれの処分場へごみを運搬していくのは、市役所の仕事になります。



環境美化、清掃活動

誰でも快適な日常生活を営む上で清潔で美しい環境の中で暮らしたいと思うでしょう。そこで快適な環境を維持するため、自治区ではみんなで力を合わせて家の周りや道路、さらには公園などの公共の場のごみ拾いや清掃活動を行っています。また、美しいまちづくりに向け花壇造りなどの環境美化活動にも取り組んでいます。



防犯灯の設置や維持管理

自分の家の周りが、夜、真っ暗だとしたらどうでしょうか。歩いたり、自転車に乗ったり、車を運転するのも心配です。犯罪だって起こりかねません。そのため、自治区の皆さんが夜でも安全で、かつ安心できるように、自治区では数多くの防犯灯を設置しています。もちろん電気料金の支払いや電球交換なども行っており、これらの設置工事費やその後の電気料金の支払いなどは皆さんの区費で賄っています。なお、これら費用の支出に当たっては市役所の補助制度も活用しています。



文化・レクリエーション活動

会員の交流と親睦を図り、地域の連帯感を高めていくため、自治区ごとのレクリエーション活動(例えば、ふれあいまつりやスポーツ大会、敬老会、子ども会などの各種行事)を開催し、心のふれあうコミュニティづくりを進めています。



広報とよたの配布、その他 生活に必要な情報の回覧

広報とよたを各家庭に配布しているのも自治区です。これらの広報紙は市から各自治区にまとめて送付されてきます。そこから自治区の各担当の方が何人かで手分けをして、各家庭の玄関先まで届けているのです。さらには市や学校、コミュニティ会議など様々な機関からの生活に欠かさない情報はもとより、自治区だよりで各種行事、会合などのお知らせも皆さんに回覧しています。



少子高齢社会における地域福祉 活動や互助活動など様々な取組

冠婚葬祭におけるお手伝いなどの助け合いはもちろん、住みよい地域づくりに向けた高齢者福祉、青少年の健全育成、健康づくり、交通安全、防災防災活動等に自主的、あるいは関係団体(社会福祉協議会、PTA、防犯協会等)と連携を図りながら取り組んでいます。例えば、一人暮らし高齢者宅の声かけ、ふれあい活動、交通安全の呼びかけ、防犯パトロール等、地域の実情に応じて様々な活動が展開されています。







インタビュー

地域で活躍する若い人たちの声

あなたも自治区活動に参加しませんか？

interview
1

平山自治区(豊南地区)では、若い方が中心となり、夏祭りの企画運営を行っています。実際に企画運営に関わる紺野さんにお話を伺いました。

こんののりしげ
紺野 周重さん



Q— なんとなくにやりがいを
感じますか？

子どもたちの楽しみづくりに貢献していることだと思います。地域の方と顔見知りになることもできます。特に小学生ぐらいのお子さんがある方には、夏祭りの運営は地域に関わる入口としてとても良いと思いますよ。

Q— 区長さんからも感謝されている
そうですね。

高齢化でテントなどの設営が大変ですから、若い力は本当に感謝されますね。といっても若い人の数は減っていますので、祭りの反省会をしっかりとやって、負担軽減や効率化できるところは積極的に改善しています。

Q— 今後、どんな地域にして
いきたいですか？

私自身、仕事で豊田市に移り住んできた人間ですが、みんながこの地域を自分たちの「ふるさと」だと感じられる、そんな地域づくりに貢献できたいと思います。

自分の子ども
が就職などで地
域を離れてし
まったとしても
夏祭りのときに
地元へ帰ってき
てくれるとうれ
しいですね。

夏祭りにはたくさん子どもたちが参加



interview
2

敷島自治区(旭地区)では、住民自ら、自分たちの地域づくりについての計画を作りました。計画の策定委員として活躍された渡邊さんにお話を伺いました。

わたなべ
渡邊 さとみさん



Q— 策定委員になった理由は？

区長さんに誘われたのが一番の理由です(笑)。私は、七年前に一ターンの移住してきた人間で、移住のときからお世話になっている地域の皆さんに恩返ししたいと思い、引き受けることにしました。

Q— 実際に活動されてどうでしたか？

集落はお年寄りの方が多く、将来この地域を守っていくのか少し不安もありました。しかしこの活動を通じて、地域のために何かしたいと熱意を持っている人がたくさんいることを知りました。策定委員に限らず同じ地域に住むいろんな世代のいろんな方と一緒に活動するのは、もちろん難しいこともありますが、地域の良さを改めて知ることのできる良い機会でした。

Q— 今後、どのように地域に
関わっていききたいですか？

まだまだ地域の方から勉強することがたくさんあるので、どんどん吸収していきたいです。そして、もつとこの地域を元気にするために、この地域の良さを、同世代のまちの方や次の世代に伝えていけるといいと思います。



地域の思いが込められた
「しきしま♡ときめきプラン」





自治区加入促進ハンドブック

豊田市区長会
豊田市

〒471-8501 豊田市西町3丁目60番地

TEL : (0565) 34-6629

FAX : (0565) 35-4745

mail : chiikishien@city.toyota.aichi.jp

令和6年3月 発行